

南アフリカ 柑橘類出荷シーズンの輸送船がさらに増便

EUROFRUIT 2024年2月15日

南アフリカの柑橘類情報筋は、4月に柑橘類の新たな輸出シーズンが始まると、さらにもう一社の国際海運会社であるMSC社が輸出の機会を増やすであろうことを明らかにした。これは、ハパックロイド社が5月までに南アフリカのダーバンとグイクベラ(旧名ポートエリザベス)の2つの港で積み込みを増やし、この追加サービスを9月まで実施するという最近の発表に続くものである。(下の関連記事参照)

南部アフリカ柑橘類生産者協会(CGA)は、今シーズン、東ケープ州のングクラ港とポートエリザベス港からの直接出荷サービスが追加されることを歓迎するとし、「世界的なコンテナ輸送のリーダーであるMSC社は最近、柑橘類の輸出シーズンの最盛期である5月末から9月初旬までの毎週火曜日に追加の便を運航することを決定した。同社は長年にわたり柑橘類業界に海運サービスを提供してきたが、今回のサービス拡大は歓迎すべきことである」と発表した。

CGAは、この追加サービスは東ケープ州の柑橘類生産者にとって朗報であるとして、「高品質の柑橘類をヨーロッパに輸出しているパテンシー、サンデーズリバーバレー、カットリバーの各地域の生産者は、このオプションを利用することができる」としている。これらの地域は、南アフリカの柑橘類輸出の大部分を占めている。CGAは以前、出荷機会の増加が柑橘類の輸出にさらなる安定性をもたらすとしていた。

同協会は現在、3月に発表する予定の正式な収穫予測を準備中であり、「CGAは現在、今年の行方を慎重ながらも楽観的に見ている。樹上の果実の状態は大変良く、収穫量が増えることが見込まれる」としている。

CGAはまた、記録的なシーズンを迎える可能性もあるとして、「南アフリカは、すべての関係者の献身的な支援によって、柑橘類の輸出量を昨年の1億6,510万箱(15kg/箱)から2032年までに2億6千万箱に増やすことができると予測されている。これにより、収益が増加するだけでなく、生産現場だけで10万人の雇用が創出される」と付け加えた。

執筆者: フレッド・メインチェス

(関連記事)南アフリカ 柑橘類業界は新しい輸送サービスを歓迎

EUROFRUIT 2024年2月9日

国際海運会社のハパックロイド社は、柑橘類の輸出の最盛期にダーバン港とグイクベラ港への毎週の寄港を追加すると発表した。南アフリカの柑橘類業界は、柑橘類の輸出にさらなる安定性をもたらすとして、この動きを歓迎している。新サービスは5月までに両港からの積み込みを開始し、予定されている寄港の大部分は9月まで続く予定である。

柑橘類生産者協会(CGA)のジャスティン・チャドウィック代表は、「柑橘類業界及び経済界全体として、可能な限り多くの出荷アクセスを必要としている。市場の競争力と柔軟性を維持する観点だけでなく、今後数年間で柑橘類の収穫量が大幅に増加すると予想される状況において新規の参入を歓迎する。すべての関係者が協力して市場アクセスを確保し、物流をより合理化すれば、南アフリカは来シーズンに柑橘類の輸出を2千万箱(15kg/箱)増やすことができるだろう」と述べた。(以下、追加便の航路の詳細について省略)

同氏は、ハパックロイド社の参入は、CGAを含む多くの生鮮食品団体が2022年に立ち上げた諮問プロジェクトの直接的な結果であると言い、「同年の食料農業政策局(BFAP)の調査では、柑橘類生産者の5社に4社は赤字を出しており、極めて高い輸送運賃が収益性低下の主な要因であることがわかった。紅海での船舶への攻撃やパナマ運河に影響を与える干ばつ関連の問題による最近の輸送運賃の高騰は、多くの果実輸出業者がいかに輸送運賃の上昇にさらされているかを示した。CGAは、海運市場に安定性と競争をもたらすことができるあらゆる措置を前進と見なす」と述べた。

執筆者: フレッド・メインチェス